

今年の夏も猛暑が続いていますがいかがお過ごしでしょうか。

台湾国立体育大の実習(7/20~27)は無事に終わることができました。すみれ、きく、うめ組の子どもたちも最初は戸惑う様子も見られましたが最後は楽しそうに一緒に遊んでいました。また学生たちも貴重な経験となったと喜んで帰国しました。

8月のおたよりでは子ども様子や学生の学びを少しご紹介したいと思います。

子どもには事前に「地球儀」で日本がどこにあるのか、また台湾がどこにあるのか、世界にはいろいろな国があること、また話す言葉も違うことなどの話をしました。

「多文化」「異文化」「世界」のことに興味・関心を持つことで今後の探求心や好奇心につながったり、外国人との交流を通して、人との様々なかかわり方に気づき、相手の気持ちを考えて接するといった思いやりが育つことを期待したいです。

初日はお互いに緊張した雰囲気でしたが各クラスの交流が始まり遊びが展開されると、言葉も通じないのに楽しくかかわっている姿を見て、子どもの順応性ってすごいなと感じさせられました。

簡単な中国語の「你好・ニーハオ(こんにちは)」と「谢谢・シエシエ(ありがとう)」の挨拶はすっかり板についていました。

次に学生から学びを紹介します。

陳辰(CHEN CHEN)

黒川辰(日本名)

大学院生・通訳

この度は先生方にご協力して頂き、感謝しても仕切れない程でした。園内の子供達は想像を軽々と超えていくほど元気で、皆、本当にいい子ばかりでした。先生の言葉とお願いを完璧にこなし、それでいて自身で行動を考え、自分でやり遂げることを重視している教育が、子供達にポジティブな思考や自主性の向上を促していると思います。

授業の豊富さや、先生たちの指導の仕方も、台湾では殆ど見かけることができない方向で、個人的な意見になりますが、持子保育園の教育は、理想的な教育像の道筋を辿っていると思います。子供達がこれからの勉学や精進の道でも、その純粹さと自由な思考を失わぬことを、



切に願っています。

吳馴悠(WU SYUN YOU)

ゆうちゃん先生

大学3年生

最初の頃は自分たちでこの六日間、ちゃんとできるのかと心配していましたが、子供達が言語が通じないからと言って無視してきたのではなく、台湾の子供達以上に元気よく接してきたことを見て、自分はもっとしっかりしなきゃと思いました。

自分が一番真似したいことと言えば、先生たちがリズムを使い、子供達にこの時間初めて何をするのかを覚えさせ、自分たちで判断できるように教えた方法でした。

この六日間は本当にお世話になり、ありがとうございました。



陳晏琪(CHEN YAN CHI)

なな先生

大学3年生

この度の実習は初めての海外経験でして、本当に得難いと同時に特別の経験でした。初めての海外も日本で良かったと思います、なぜかと言うと台湾からしたら上位互換の感じでした。園内の雰囲気、子供達の自律性や秩序、向上心など、台湾では比になりませんでした。活発であり礼儀も申し分なく、先生たちとのコンビネーションもバッチリ。

一番真似出来ることと言えば、音楽を子供達の自律性に繋げさせることでした。どんな音楽は何をすれば良いのか、子供達は瞬時に自分でわかりました、とても素晴らしいことでした。これを用いて、子供達の自主性や連携をもっと高めることができますと思います。

最後に、先生方にはどう感謝しても足りないぐらいです。丁寧な指導や意思疎通、本当にありがとうございました。



林佩綺(LIN PEI CHI)

アイス先生
大学3年生

最初はスマホも見れず、一日中言語が通じない子供達との交流は結構辛抱するのではないかと思っていましたが、いざ子供達と遊んでみればそれも一変、毎日こちらが学んでるようで、子供達はとても元気でした。日本の先生たちは子供達に対し、比較的怒りや怒鳴りで教えるのではなく、歌や拍手、時間割でしっかり子供達に覚えさせ、子供達もそれにしたがって一人一人しっかりしています、台湾の高校生よりもしっかりしています。これらのノウハウを台湾でもできないか、幼児の頃からの教育で色々変えてみたいと思っています。



蔡佳軒(TAI CHIA HSUAN)

すいか先生
大学2年生

この六日間の実習は、私にとって驚きの連続としか言えませんでした。

実を言えば幼稚園で丸一日付きっきりいるのは初めてでしたが、それでも日本の子供達がこれほど先生方の話を聞くのは驚きました。初日からそう思い、他の組もそうでした、それも先生の引きつけ方が鍵だと思いました。

これらは台湾では見られない光景であり、経験でした。これを用いて、子供達をどう惹きつけるのか、怒鳴るのではなくちゃんと言うと、理解する大切さをこれから伝えていこうと思います。日本は幼児体育だけでなく、幼児教育としてとても良い学習対象でした



林宸安(LIN CHEN AN)

さくら先生

大学1年生

今回の実習は初めて台湾から飛び出したので、とてもためになりました、まるで違う世界を見ているようでした。

今回の実習対象が3~5歳児だったので、一番の困難はなんと言っても言葉が通じないことでした。中国語はおろか、英語もダメだったので、全て手足で表すことしかできませんでした。そんな中、一番驚きを覚え、台湾でも実施してみた

いは先生たちの子供たちに対する教育の仕方です。それは自立を重んじること、給食の片付けやおもちゃ、しいては保育中でも子供達の自立した行動の教育は、これからの台湾で最も重要なことになっていくと思いました。

こんなに小さい子供達でも自分で色んなことをできるのは、不思議とまで思わせたほどでした。



蔡俊杉(TASI CHUN SHAN)

ヨーヨー先生

大学1年生

この度は初めて台湾を飛び出し、初めての日本でした。保育園の先生方はもちろん、黄先生や先輩達の引率があたからこその経験でした。日本の子供達はとても特別だと感じました。とても良い子で、何と言っても元気いっぱいでした。

そんな元気いっぱいの子供達も、先生の言うことをちゃんと守れるのはとても意外でした。台湾に戻った後も、先生たちが使っていた音楽との連携や、早めに子供達に自立性を培うことを重視する教育をしてみたいです。この度は本当にありがとうございました。



このように短期間でしたが学生にとって貴重な経験になったと思います。3年生の学生は「将来は幼児体育指導者になって子どもたちに運動の楽しさを伝える」と言って帰国しました。

日本には「外国人」だけでなく、外国に何らかのルーツをもつ人もたくさんいます。本園でも外国人講師とゲームや歌の英語遊びを取り入れた保育を行っており外国人との交流を行っています。今回の交流経験のことはすぐに忘れてしまうかも知れませんが、外国人との交流経験が海外に興味を持ったり、多様性を尊重する心を育ててほしいと願っています。

まだまだ暑い日が続きます。

体調管理に気を付けて、楽しい夏の思い出を子どもとつくってください。